

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立横川中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	208人	社会	208人	数学	208人
	理科	208人	英語	208人		

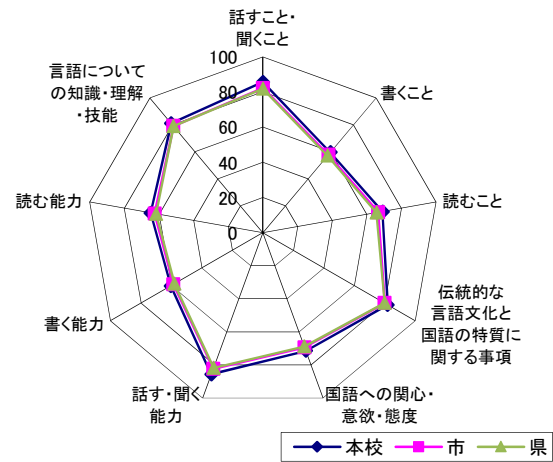
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	85.6	82.3	81.8
	書くこと	59.7	58.0	57.2
	読むこと	69.1	66.6	65.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	81.9	80.0	79.9
観点	国語への関心・意欲・態度	71.4	69.4	68.8
	話す・聞く能力	85.6	82.3	81.8
	書く能力	60.4	58.8	58.1
	読む能力	64.8	62.5	61.7
	言語についての知識・理解・技能	81.2	79.2	79.1



★指導の工夫と改善

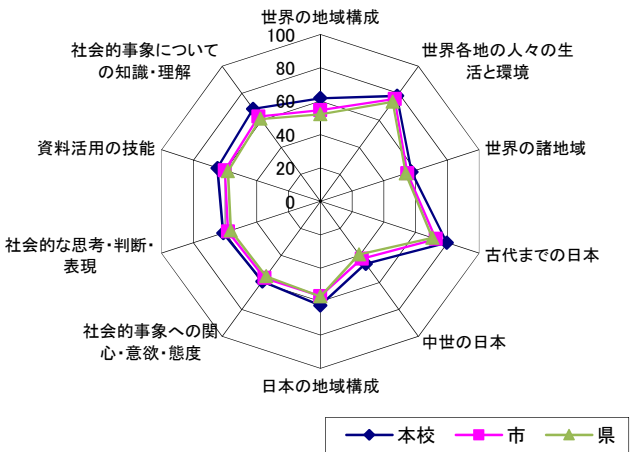
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○宇都宮市平均を3.3%上回った。 栃木県平均を3.8%上回った。 ●相手の発言を注意して聞いて、自分の考えをまとめる問題が県の正答率よりも低かった。	・人の話を聞いて、その話の要点を聞き取る力が身に付いている生徒は多いが、要点をより分かりやすく整理し、伝えるための工夫ができていない生徒が多いことが分かる。資料を要約することに慣れていくことで正答率が上がっていくと考えられるので、聞き取りのテストを通して要点を捉え、文章にしてまとめる課題に重点的に取り組ませる。
書くこと	○宇都宮市平均を1.7%上回った。 栃木県平均を2.5%上回った。 ●伝えたい事実や事柄について自分の考えを明確にして書く問題の正答率が低かった。県平均より低く、全体でも約2割の正答率しかなかった。	・自分の考えを明確にして言葉にすることや、書くこと自体に対して抵抗がある生徒が多いことが課題として挙げられる。授業中に空欄へ当てはまることを補う問題を用意したり、適宜授業の中で短作文等を書いたりするなど、書く習慣づけができるような指導を行っていく。
読むこと	○宇都宮市平均を2.3%上回った。 栃木県平均を3.5%上回った。 全問題で県の平均を上回った。	・文学的文章の読解に関して、場面の展開をきちんと理解している生徒が多い。段落ごとの読解だけではなく、物語全体の中での各段落同士の関係性などを把握できるように授業展開を行っていく。また、説明的文章については、要点を捉える指導だけでなく、段落相互の関係性を把握させることで、読解力を伸ばしていけるよう指導を行っていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○宇都宮市平均を1.9%上回った。 栃木県平均を2.0%上回った。 ●故事成語の問題や漢字の書きの問題で、県平均を下回った部分があった。	・学習している単元についての漢字テストの実施だけではなく、折を見て、1学年の単元や小学校の既習漢字のテストを実施していく。また、故事成語やその他文法なども、つなげる文法の授業の際に必ず復習を行いながら授業を進めていく。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	61.9	54.7	52.3
	世界各地の人々の生活と環境	78.2	75.9	73.7
	世界の諸地域	57.5	54.8	53.9
	古代までの日本	79.7	72.7	70.5
	中世の日本	46.2	42.4	39.3
	日本の地域構成	62.2	56.7	56.9
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	59.1	56.7	55.3
	社会的な思考・判断・表現	61.2	58.1	56.4
	資料活用・技能	64.8	60.1	58.2
	社会的事象についての知識・理解	68.5	62.9	61.1



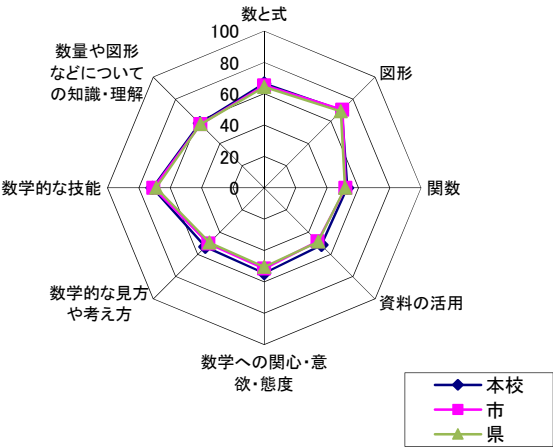
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	○県平均を9.6ポイント上回った。 ●方位を読み取るために適切な正距方位図法を選択し、それをもとに判断する問題の正答率が3割を下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・方位を読み取るために適切な正距方位図法を判断できるよう、地図を用いた演習問題を行っていく必要がある。
世界各地の人々の生活と環境	○県平均を4.5ポイント上回った。 ●冷帯に属している地域が高床になっている理由を選ぶ問題の正答率が県平均を下回った。	・複数の資料から考察し、文章で表現する活動を行っていく必要がある。
世界の諸地域	○県平均を3.6ポイント上回った。 ○モノカルチャー経済の国々が抱える課題を文章で説明する問題の正答率は県平均を4.9ポイント上回った。 ●北アメリカの地形の断面図を選ぶ問題とオーストラリアの貿易相手国の変化に関する問題の正答率が県平均を下回った。	・貿易などの変化について自分の言葉で説明できるような活動を行っていく必要がある。
古代までの日本	○県平均を9.2ポイント上回った。 ○どの問題も県の正答率を大きく上回った。1学年の最初の頃の学習内容であるため、当時の学習意欲の高さの表れではないかと推測できる。	・資料などから時代の流れの変化について、理解できるように学習指導を行っていく必要がある。
中世の日本	○県平均を6.9ポイント上回った。 ●どの問題も県平均を上回っているが、古代ほど上回っておらず、もしかすると意欲が低下していることが推測できる。	・当時の資料とできごとを結びつける学習指導をしていく必要がある。
日本の地域構成	○県平均を5.3ポイント上回った。 ●竹島の名称と写真と位置、不法に占拠している国を結びつける問題の正答率が県平均を下回った。	・写真・地図・できごとをしっかりと結び付けることができる学習活動を行っていく必要がある。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	66.5	65.4	64.4
	図形	70.0	70.5	69.0
	関数	52.9	51.9	51.5
	資料の活用	51.5	48.1	48.6
観点	数学への関心・意欲・態度	54.4	51.5	50.4
	数学的な見方や考え方	53.1	50.2	49.4
	数学的な技能	71.2	70.6	68.9
	数量や図形などについての知識・理解	58.2	57.5	57.4



★指導の工夫と改善

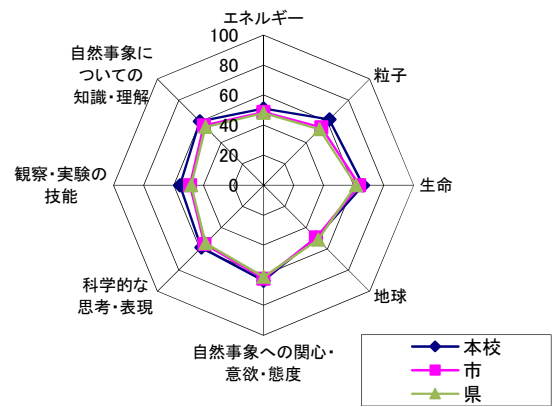
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○市の平均を1.1ポイント、県の平均を2.1ポイント上回っている。 ○1次式の減法の計算が県の平均を6.7ポイント、文字式の大小関係を6.9ポイント上回り、基本的な計算の技能は身に付いている。 ●1次方程式の解の意味について、6.2ポイント下回っている。	・全体的に基本問題に積極的に取り組み、基礎的な計算能力は身に付いている。しかし、1次方程式やその解の定義についての理解が不十分であることがうかがえる。今後は作業的な計算にとどまらず、定義やその意味についてを確認しながら、より深い知識の定着を図ることを重点的に取り組んでいく。
図形	○県の平均を1.0ポイント上回っている。 ○三角形の高さを表す線分の作図は県平均を9.0ポイント上回っている。 ●回転移動の意味や、ねじれの位置、回転体の問題は県平均をわずかに下回っている。	・「垂線の性質」や「立体の体積の関係」などの数学的な知識や技能は学習内容が十分に定着されている。しかし、おうぎ形と円の関係や回転移動での対応する辺の関係の理解が不十分であることがうかがえる。デジタル教科書などのICTを活用し、視覚的な理解が深められるようにしたい。
関数	○比例・反比例の内容似について、 x の値の変化に対する y の値の変化の仕方についてどのように変化するか知識や与えられたグラフから必要な数値を求めることは県平均を上回っており、良好な状況が見られる。 ●関数がどのような関係を表しているかの知識や、式・表・グラフについて必要に応じて自由に関係を表すことは県の平均を下回っており課題としている。	2学年では、関数の領域の内容は1次関数である。1次関数の内容を指導する過程で、比例・反比例の内容を振り返る活動を行う。また、表・式・グラフを関連付けて考えるような活動を継続して取り入れ、必要に応じて表し方を工夫できるように指導を続けていく。
資料の活用	○累積度数を求める問題は、県平均より8.7ポイント上回った。 ●資料の範囲を求める問題は、県平均より1ポイント下回った。	・入試に出題されるにもかかわらず、おろそかにしがちな単元であるため、授業で積極的に小テストや振り返りを行い、復習を徹底させる。 ・表を読み取り、表現する力を身に付けさせるために、授業でグループ学習で話し合ったり、自分の言葉で発表したりする活動を取り入れていく。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	51.1	48.8	48.1
	粒子	62.0	54.4	52.6
	生命	66.3	63.7	61.5
	地球	49.4	49.4	51.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	63.6	62.3	61.1
	科学的な思考・表現	58.7	55.7	54.8
	観察・実験の技能	55.8	49.0	48.3
	自然事象についての知識・理解	60.1	56.3	54.8



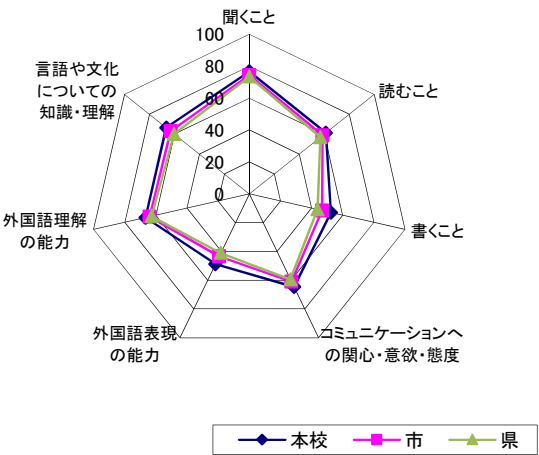
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○光源から出た光の道すじを作図する問題では県の平均を4.9ポイント上回っている。 ○つり合っている2つの力の関係を考える問題では、県の平均を4.0ポイント上回っている。 ●重力とばねののびの関係をグラフに表す問題の正答率はかなり低かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実験結果を読み取ってグラフに表す操作などを積極的に に行い、データを定量的に見とる技能を身に付けさせる。 ・演示実験や映像資料によって、実用的なものとの関連を 深く意識させ、学習する意欲を高める。
粒子	○市の平均を7.6ポイント、県の平均を9.4ポイント上 回っている。金属の特徴、粒子モデルを用いた水溶 液のようす、蒸留で集められる気体についての問題 で正答率が高い。 ●グラフから読み取って、析出した結晶の量を計算 する問題の正答率が低い。 ●密度を求め金属を特定する問題で正答率が低	・目的意識をもって実験に参加できるように、実験を行う際 に、生徒たちが自分たちのもっている知識を利用し、実験 の方法を考え、計画を立てることを取り入れていく。 ・グラフの読み取りを苦手としている生徒が多いので、丁 寧に問題演習をさせていく。
生命	○動物、植物への興味関心が高く、基本的な内容に についてもよく理解している。 ○身の回りにあるシダ、コケ、根のつくりなどに対 して注意深く観察することで、発展的な内容について よく理解している。	・基礎基本を身に付けさせるとともに、事象に対してよく見 て考えさせる指導を行っていく。 ・身の回りの動植物を採集して観察するなど、教科書に 載ってない生物の特徴についても観察、考察する技能を 身に付けさせる。
地球	○地層の特徴から、海底の地形の変化を推測する 問題では、県の平均を3.8ポイント上回っていた。 ●マグマの粘度と火山の形の関係を推測する問題 では、県の平均を2.7ポイント下回っていた。 ●示相化石の種類とそこから当時の環境を推定す る問題での正答率が低かった。	・自然のさまざまな現象についてしくみを考えたり、結果か らわかることを推測したりする時間を設け、理解を深める ことができるような指導を工夫していく。 ・授業でインプットした知識をアウトプットさせる演習を多く とり入れていく。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	76.7	74.4	73.5
	読むこと	61.4	58.7	56.9
	書くこと	52.5	46.8	43.9
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	64.7	61.0	59.4
	外国語表現の能力	48.8	43.5	41.1
	外国語理解の能力	66.7	64.0	62.8
	言語や文化についての知識・理解	66.5	62.9	60.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○市の平均のポイントを2.3ポイント、県の平均を3.2ポイント上回っている。 ○イラストを見て答える問題や、対話を聞いて正しい応答を選択する問題の正答率が特に高い。 ●対話を聞き取り、英語で回答する問題の正答率が低い。	・会話の流れを理解する力を養うため、友人と会話をする機会を増やしたり、授業でリスニングに取り組んだりする時間を設ける。 ・正しい綴りや文法を用いて回答ができるようにするため、英語の基礎知識を定着させる指導を行う。
読むこと	○市の平均のポイントを2.7ポイント、県の平均を4.5ポイント上回っている。 ○英文の情報を正しく理解したり、対話の流れを読み取って適切な単語や表現を選択したりする問題の正答率が高い。 ●指示語の内容を回答する問題の正答率が低い。	・指示語の問題に対する回答の仕方を指導するとともに、問題演習を積み重ねることで定着を図る。 ・まとまった文を読む時間を設け、長文に慣れ親しませる。
書くこと	○市の平均のポイントを5.7ポイント、県の平均を8.6ポイント上回っている。 ○英文を正しい語順で答えたり、与えられた指示に従って回答したりする問題の正答率が特に高い。 ●自分の意見を書く英作文の正答率が低い。	・自分の意見を英文で書く時間を確保し、書く習慣を作るとともに、文法や表現の指導を行う。 ・様々なテーマで英作文の指導を行い、場面に応じた英作文を書けるようにする。

宇都宮市立横川中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭での学習に対する質問に本校の多くの生徒が肯定的な回答をしている。家で学校の授業の復習をしている生徒は85.9%で、市の平均より10.8ポイント、県の平均より11.4ポイント上回っている。家庭学習の習慣が身に付いている生徒が多いようだ。

○学習に対して、自分から進んで取り組んでいる生徒は82.7%で、市の平均より7.8ポイント、県の平均より8.6ポイント上回っている。

○自分自身のことについての質問も肯定的な回答が多く見られ、自分に自信をもって行動している生徒も少なくないと思われる。今後も生徒を励ましなが、自信をもって活躍できる場面を増やしていく。

●授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている生徒は79.8%で、市の平均より9.6ポイント、県の平均より10.5ポイント下回っている。授業の中で学習のめあてやねらい、まとめを明確にし、ノート等にかかせてさらに意識をさせるよう指導していくようにする。

●ふだん(月～金曜日)、一日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む)をしますかという質問に対して、19.7%の生徒が3時間以上と回答していて、市の平均より3.5ポイント、県の平均より4.9ポイント下回ったが、ふだん(月～金曜日)、一日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか、という質問に対して、16.7%の生徒が3時間以上と回答していて、市の平均より3.8ポイント、県の平均より3.5ポイント上回っている。ゲームの使い方はもちろんだが、携帯電話やスマートフォン、タブレット、PCなどインターネットを使うものの使い方や家庭での約束事等をきちんと考えていく必要がある。学校でも、それらを使用する上でのリスクやモラルなどをさらに指導していく必要がある。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・自主学習ノートの取組み方の統一。	・自主学習に取り組む時に、「めあて」「振り返り」を書くことにより、どんなことが分かり、どんなことが分からなかったのか確認して学習に取り組ませる。	・家庭での学習に関する質問項目に対して、授業の復習に取り組んでいると回答した生徒の割合が、市、県の平均を10ポイント以上上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・各教科の授業において、「めあて」を提示して授業に取り組み、「振り返り」を毎時間行えている割合が市、県の平均を下回っている。	・「めあて」「振り返り」を各教科とも毎時間行う。	・授業の目標を理解させるために、「めあて」を提示して授業に取り組ませる。また、「振り返り」を行うことで、授業の中で理解できた部分、これから更に取り組んでいく必要があることを理解させる。